

成果の説明書

(氏名)木暮律子	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>①協働学習に関する実践報告 新型コロナウイルスの感染拡大により、オンラインで実施することになった 2020 年度の「異文化コミュニケーション」の授業を振り返り、オンラインによる協働学習の取り組みを報告した。 ・「オンライン授業におけるグループワークの実践ー「異文化コミュニケーション」の授業での協働学習の取り組みー」『地域政策研究』第 24 巻第 3 号 pp.15 -31</p> <p>②ビジネス日本語教育のための基礎調査 今年度より新たに開講された留学生対象の選択科目「ビジネス日本語 I」の受講者に対し、授業の難易度や理解度等に関する調査を実施し、ビジネス日本語能力に関するデータの収集を行った。</p> <p>【教育活動】</p> <p>①日本語教育カリキュラムの運営 日本語教育の新カリキュラムがスムーズに進められるよう、必修日本語のクラス分けを実施するとともに、非常勤講師との連絡調整及び日本語科目 9 科目の統括を行った。</p> <p>②専門二字漢語の確認テストの実施 「大学生活のための日本語」の講義において、経済学及び地域政策学で用いられる二字漢語の習得を目的とし、Forms を用いた確認テストを実施し、授業内で理解の定着を図れるよう語彙指導を行った。</p> <p>③オンライン受講学生の情報リテラシーと受講環境に関するサポート 新型コロナウイルス感染症に伴う入国制限により、海外から受講している留学生に対し、教室活動への参加や課題の提出が遠隔でも問題なくできるよう、情報リテラシーに関する個別指導を行った。</p> <p>④アクティブ・ラーニングの実践 「異文化コミュニケーション」の講義において、留学生と日本人学生によるグループワークを実施し、異文化間協働による大学紹介ポスターの作成等、実践的なトレーニングを行った。また、Forms による課題の提出を通して受講生の理解度をはかり、授業展開にも反映させるよう努めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>・新入留学生に対するサポート：国際交流センター主催の留学生ガイダンスのなかで、就学・生活指導を行うとともに、ICT 環境に関するアンケート調査を実施し、新入留学生が日本での大学生活に適應できるようサポートを行った。</p> <p>・留学生アンケートの実施：新入留学生を対象に、入試情報の収集方法に関するアンケート調査を行い、大学情報の発信方法等、今後本学が取り組むべき課題を報告書にまとめた。</p> <p>・日本語部会の実施：8月、11月、2月の計3回、日本語科目を担当する非常勤講師とともに部会を開催し、カリキュラムの検討や授業の振り返り、次年度に向けた課題の共有を行った。</p> <p>・「日本留学オンラインフェア」参加：日本学生支援機構(JASSO)主催の日本留学オンラインフェアに参加し、日本の大学に進学を希望する外国人学生に対して、本学の特色や学生生活、入試等に関する情報の提供を行った。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

来年度は、日本語教育新カリキュラムの完成年度を迎えることから、今年度行った「ビジネス日本語Ⅰ」の調査結果の分析を進め、両学部の日本語教育一元化の成果と課題をまとめる予定である。また、経済学・地域政策学分野に出現する専門用語の調査を行い、専門日本語教育のための用語集の作成に取り組みたい。